

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

8 (通巻12号)

平成14年9月30日発行

【目次】

こんなきました 参考調査課によせられたレファレンス - 14年後に<馬鹿>と再会したはなし	1
こんなあります - いちおしレファレンスブック - 児童図書は侮れないぞ!	2
市町村のみなさんからの発信	3
図書館耳袋 - 小さなまちの図書館カウンター調べもの騒動記(聞き書き) または事務室雑談覚え書き - 門別町図書館郷土資料館 安藤整子さん	
News	5
各講習会・研修会に参加 北海道立図書館移動図書館事業(秋期)に参考調査課員同乗 問い合わせ多数!?市町村図書館職員体験研修 11月は道立図書館が熱い!? - 11月に当館で様々なことが起こります。 国立国会図書館はもっと熱い!? - 新たな動き	
Librarian's Box(ししょぼこ) 「まちの図書館」(『まちの図書館でしらべる』編集委員会編 柏書房 2002年 1月刊)を読み解く	6
課員のつぶやき - 日々の業務からの短信 -	7
恐るべし!年の功 - 「莫大小」と「あいとえきしょうせざるはこうのはじめなり」 の教訓	
News その2 ただいま、進行中 - 「市町村図書館購入雑誌・新聞総合目録」・ 「全道部門別研究集会のテーマはレファレンス」	8
聞かせて!「Do-Re」って?	9
編集後記	10



北海道立図書館

069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

Tel 011-386-8521

Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス -

14年後に 馬鹿 と再会したはなし

左下の文章は、当館の館報 No.123(1988.3 発行)の『カウンター雑記』欄に掲載した拙稿です。ことの成否は別として、聞き覚えのある未解決の質問事項に再び相まみえるのも奇縁というべきでしょうか。今回の『こんなのきました』はそんな例です。

照会は図書館からで、《中国黒龍江省に馬鹿(マロク)という鹿がいたと記憶しているが、生態を記載している資料を見たい》というものでした。質問者は実際に見たことがあるとも付記してありました。

この度のアタックルートは、次のようなことでした。まず、参考図書コーナーで

馬鹿を見たはなし

カウンターに寄せられるレファレンスはさまざまである。電話や文書によるそれとは違い、質問者と対面しているわけで資料の援助も比較的やりやすい面がある。しかし、漠然とした質問や反対にあまりにミクロ的調査に思案することがある。

対応しきれなかった事項は、多少の口惜しさと無念さといったものを伴ってどこか記憶の隅に残るらしい。印象的なレファレンスというものがあるものである。事務室へもどり、同僚の協力を求めることもある。とっかかりがないようできて、意外や意外、数日前の新聞に関連記事を見たとか、知る人ぞ知るといふこともあるからである。

外国事情の調査も近頃の傾向で、中国の「馬鹿」について質問を受けたとは後で聞いた話である。資料に見当たらず回答不能となったが、正確な読みも不詳のようである。幻獣か珍獣なのだろうか。

そんな事があって後年、中国ツアーで桂林の動物園を訪れる機会があった。お目当てはパンダである。もっとも当初からのこちらの希望ではない。彼の地では1日のスケジュールは、当日の朝貼り出される日程表で初めて知るのである。パンダは思っていたよりずっと獣的で、テレビで見る上野のホアンホアンほどは可愛くないのである。けれど収穫があった。「馬鹿」を見たことである。偶蹄目鹿科、東北・蒙古方面が産地と説明がある。えっ、これがあの思わず駆け寄り、見れば角もあり鹿であるらしい。

柵越しの彼らを1枚、もう1枚を「馬鹿」の看板と一緒に撮ってもらったものだから、嬉々としたわが面はまるで看板通りという風情となってしまった。

資料に依って回答する図書館のレファレンサーとしては、貴重な写真となったとは負けおしみだろうか。閲覧希望には恥をしのんで応じぬこともないのご相談ください。委細面談。

(奉仕部奉仕課)

「世界大博物図鑑 5 哺乳類」(荒俣宏著 平凡社 1988)に当たったところ、『偶蹄類 シカのなかま』にずばりの項があり“この日本語は、サンスクリット語で無知を意味するmahallaka、または痴呆を示すmohaのあて字といわれる・・・、中国では 馬鹿(まろく) は古くからあるれっきとした動物名であって、アカシカの亜種・・・、「本草綱目」にも・・・”としっかり書かれています。であれば漢方も、と「中薬大辞典 第4巻」(小学館 1985)のロクジョウ(鹿茸)の項のアカシカに行きつきました。分布は、中国東北、内モンゴル・・・とあります。シカ(角)は強壯作用ほかの薬効があるようです。次にアカシカをキーに雑誌「朝日=ラルース週刊世界動物百科」(朝日新聞社)でカラー図版を含む4頁分の記事確認(中国ではマールゥとよむ)ができ、回答終了となりました。

後日、質問者本人から丁寧な礼状が届き、“22年ぶりの訪中で馬鹿 マーロ 飼育農場のある地へ行く・・・ふと馬鹿を思い出す阿呆奴の事、堪忍して下さい・・・”とユーモアあふれる文章とツアー日程表が同封されていました。図書館員冥利につける嬉しいことでした。

なにより、荒俣センセイの功績に感謝！ ですが、レファレンス環境の変化(多様な資料発刊やインターネットなど)で解決した事例です。

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック -

児童図書は侮れないぞ！

「総合的な学習の時間」も本格化しつつある昨今、皆さんの図書館(室)でも調べものを目的とした子ども達の来館が増えているのではないのでしょうか。また、児童図書の出版事情も“総合的学習対応”を謳った資料が目白押しです。その中には大人向けのレファレンス・ブックとしても充分役立つ資料もあるものです。

今回は、今年出版されたピカピカの新刊とロングセラーとして活躍し続けている資料の2点を紹介します。

「総合百科事典ポプラディア 12 学習資料編」(ポプラ社 2002)

「ポプラディア」はポプラ社が満を持して出版した、五十音引きの児童用百科事典です。この形式の百科事典は、本当に久々の出版と言えるでしょう。本編10巻、索引、学習資料集、付録ビデオからなっており、特にこの“学習資料集”は、学習に取り入れられそうな内容が最新データに基づいて示されている、正に“今が旬”の一冊です。

「歴代の内閣総理大臣は？」 在職期間、死亡年、出生地が一覧に！

「環境基本法の条文が知りたい」 条本文と語句解説あり。

「有機 JAS マークってどんなの？」 暮らしの中のマーク情報あり。



といった、大人の利用者からも問われる内容が図表として示されていて「うちには資料が揃ってないから...」と諦めていたレファレンスにも、ある程度対応してくれます。また余談ですが「ズッコケ三人組」のキャラクターを使った付録ビデオも、図書館での調べものの仕方を案内してくれる優れものです。

「朝日学習年鑑 統計」(朝日新聞社 年刊)

言わずと知れたロングセラーの年鑑ものです。書名の変遷はあるものの長年利用されているその秘密は、数少ない“子どもに手渡せる統計書！”という点ではないのでしょうか。また年鑑なので、内容も毎年更新され“最新”を求められ易い統計データにも対応できます。もちろん大人のレファレンスにもOK!

「日本の国立公園・国定公園の一覧がほしい」...2001.3 現在データあり。

「高齢者世帯は10年前と比べてどれくらい増加している？」

... 75から5年おきのデータあり。「国民生活基礎調査」より。

示されている数値は、政府機関や各種協会の統計調査によるもので、その出典も記載されているので、その後の調査にも繋がっていきます。

図表形式が多く、ルビも振られ、わかり易く出来ています。親とも言うべき「朝日年鑑」の方は、残念ながら 2000 年版をもって休刊となってしまいました。子どものほうはまだ活躍が続きそうです。

市町村のみなさんからの発信

日高管内図書館振興協議会の司書部会では、職員のスキルアップを図るために熱心な研修活動を行っています。平成 10・11 年度はレファレンスに取り組み、各図書館の事例や役に立つ参考図書、インタビュー技法などについて研究し、「日高の図書館・れふぁれんす集」(A4 版 99p)として結実しました(必見!)

図書館では、レファレンス要求の高まりとともに、自館だけでは解決できない事例も増えてきており、今後その傾向はますます顕著になることと思われます。個々の研修はもとより、図書館同士が資料や情報を共有し、協力しながら解決していく必要に迫られてきています。…というようなことを考え、今年度の中堅職員研修会(主催:北函振 期日:7/3~5)ではレファレンスをテーマとし、協力レファレンスという観点から門別町図書館郷土資料館奉仕係長安藤整子さんに「近隣地域で連携するレファレンス研修 日高管内図書館の実践」と題して発表をいただきました。

さらに、今回は町村現場での生々しい(?)レファレンスのやりとりを原稿にいただきました。あなたのカウンター現場でも、思い当たるような…。

図書館 耳袋

小さなまちの図書館カウンター調べもの騒動記(聞き書き)

または事務室雑談覚え書き

門別町図書館郷土資料館奉仕係 安藤整子

「生きる」はなし二題

その1

注:文中の「私」は安藤ではありません。

私(図書館勤務歴5年弱)のところへカウンターについていた職員(カウンター歴6ヶ月)からヘルプがかかり、行ってみると利用者から「ユウギリノセイ」という本はないか、と聞かれたが探せない、とのこと。「ユウギリ」で検索しても源氏物語が出てくるだけ。古典物なのかなあ?

利用者にもう一度確認すると、

利用者「本を書いた人がユウギリで、本の名前がセイです。今、話題になっている本で、前にも何冊か出ている続き物で、今までの書名も全部漢字一文字なんだよね。」

私 「セイってどんな字ですか?」

利用者「生きるって書くんだけど。」

私 (ハハア~ン)「もう一度作者名を教えてください。」

利用者「ユウミリ(柳美里)です。」

私 (柳美里の「生(いきる)」だったのか。本の名前がユウギリだと思ってたから、何聞いてもユウミリと聞こえなかったんだあ。お客さんもシツコいな~って思っただろうな。)

その2

私(図書館勤務歴5年弱)の知人

「五木寛之の新しい本で『生きる』ってつく本、図書館にあるかい?」

私 「『生きるヒント』のこと?」

知人 「違う。最近出た本で、書いた人がワイドショーで話をしていて、自分の両親の死についてを、初めて書いたと言っていた。」

私 (また「生きる」だぁ～。日野原重明なのかなぁ？両親の話なら違うかなあ。)

ネットで TRC の新刊情報を検索。五木寛之の新刊の内容を確認して、「運命の足音」と判明。

日本語ブーム

利用者「日本語がいっぱいっている本ありますか？」

職員 A(ん～？辞書のことかな？)「どういったものをお探しですか？題名とか、本を書いた人の名前とか、わかりますか？」

利用者「テレビの金八先生の中で、朝の読書で読ませていた本です。最近話題になって、よくテレビでも紹介されたりしてるし、知人からいい本だとすすめられたんです。題名に『日本語』が入ってたと思います。知人から正確な書名などを聞いて、また来ます。」

というやりとりがあったことを聞いた職員 B は、「きっと『声に出して読みたい日本語』(齊藤孝著 草思社)だと思うよ。確かに日本語はいっぱいってるけどねえ。」(正解でした。)

内容だけしかわからない本

ある日、日高管内の S 町図書館からの Fax。

下記の資料につきまして所蔵調査・貸出をお願いいたします。

- ・ 内容だけしかわからない本
- ・ 主人公はてぶくろ、片方のてぶくろが旅に出る話。最後は、やはり一緒がいいねという話だそうです。
- ・ 画は長野ヒデ子さんに似ている感じがする。
- ・ 探している方は 30 代前半の女性で、3・4 年ぐらい前に読んだとのこと。記憶にありましたら、お知らせください。

職員一同う～むと首をかしげながら、な - なんかあったような気がするなあ。とりあえずタイトルに、「てぶくろ」のつく絵本にあたってみるか。

もうちょっとヒントがないか、S 町図書館に電話。

追加情報・病院の待合室でこどもと一緒に読んだ。

・ 大きさは B5 から A4 ぐらいのサイズ。

・ はじめは、長野ヒデ子さんの絵本のリストが欲しいと言ってきた。「せとうちたいこさん」を見て、こんな絵だとおもったとのこと。

インターネットで試しに「てぶくろ」と「かたっぽ」で検索したところ、こういう本を探してます、という復刊希望のサイトで「てぶくろくろすけ」が出てきた。これではないだろうか。

自館の所蔵を調べると、

「てぶくろくろすけ」《こどものとも年中向き 1989 年 2 月号》

川崎洋ノさく 長新太ノえ 福音館書店

内容を確認すると、これらしい。S 町図書館には所蔵していないとのことなので、送って利用者に確認してもらうことに。この本に間違いのないとの電話有り。

後日、返送された本と一緒に入っていた S 町図書館の文書には次のような担当者の言葉が、

ありがとうございました。

お客様からとても感謝され、胸のつかえが落ちたようですと話していました。

さらに、こどもが一日何回も読んでいたそうです。

NEWS

各講習会・研修会に参加

- a. 「図書館等職員著作権実務講習会」(主催：文部省 7/23~26 於：東京)
当課の金山が参加。著作権法逐条解説のほか、複写、公衆送信権 (Fax 送信やインターネット上のアップロードなど)、展示や上映など、標題どおり図書館で無視できない問題に関して、基礎的なことを受講。電子情報の想像を超える普及ぶりは著作権法も曲がり角にきていることを実感したようです。
- b. 「市民のための著作権講座」(主催：著作権情報センター 8/30 於：札幌)
当課の大塚が参加。著作権制度の歴史や漫画やゲームソフトに関する著作権問題などの講演でした。図書館と著作権の関係については触れられなかったものの、まさに標題どおり、著作権をより身近に感じた講座だったようです。
- c. 第 44 回北海道図書館大会 (主催：北函振 9/5~6 於：札幌)
当課の金山、桑原が参加しました。大会は、「これからの図書館」(青弓社 2002.3)の著者、昭和女子大学の 大串夏身教授の基調講演から始まり、3つの分科会で館種を越えた意見交換がなされました。
- d. 全国公共図書館整理部門研究集会・北日本図書館連盟整理部門研究集会 (主催：日図協ほか 9/19~20 於：秋田)
当課の原が参加。「地域資料再発見」をテーマにし、根本彰東大助教授の「地域資料サービスのリストラクチャーリング：地方分権、IT、図書館経営」の講演のほか、3つの事例発表が行われました。

北海道立図書館移動図書館事業(秋期)に参考調査課員同乗

8月下旬からの秋期移動図書館事業で、9月17~20日の上川地域の巡回に大塚が同乗。研究協議会では「みんなで考える図書館からの情報発信」というテーマで図書館だよりやイベントなどの話を中心に進められました。「今回初めて巡回に同行してとても緊張しましたが、当館・当課のPRはしっかりできた！」(本人談)と胸を張っておりますので、今後に期待してください・・・?

問い合わせ多数!? 市町村図書館職員レファレンス体験研修

前号でもお知らせしましたが、レファ研の申し込み、問い合わせが続出。今年の日程は埋まる勢いです。来年1~3月にご希望される方も早めに当課へお問い合わせを!

11月は道立図書館が熱い!? - 11月は当館で様々なことが起きます。

- a. 11月3日文化の日、祝日開館、書庫ツアーなどのイベントがあります
- b. 11月5~8日、所蔵資料展「痛快!爽快!時代ストーリー」(道庁1階道民ホール)
- c. 11月中にインターネット上で当館のOPACを公開

国立国会図書館はもっと熱い!? - の新たな動き

関西館が10/7いよいよ開館するほか、ホームページも生まれ変わります。NDL-OPACでは検索できる書誌情報が拡大します。明治期以降の和図書、地図資料、音楽録音資料や雑誌記事索引等々が順次検索可能となります。また、資料群ごとに分かれていたデータベースが統合され、一つのシステムで検索可能となる模様。

さらに、インターネット資源選択的蓄積実験事業(WARP)を開始し、ウェブサイトやウェブ上の電子雑誌の収集・蓄積・保存する実験を行うそうです。当館の「Do-Re」も協力することになりました。

詳細は、国立国会図書館発行の「図書館協力通信 92号」(2002.9)に掲載されています。ともかくにも、今すぐ国会のHPをのぞいてみよう!

Librarian s Box (ししょぼこ)

「まちの図書館でしらべる」(『まちの図書館でしらべる』編集委員会編 柏書房 2002年1月
刊 ¥2,000)を読み解く

本書は、“まちの図書館”で“しらべる”ということに徹底的にこだわった本です。何か“知りたい”と思ったときに、図書館はどのように応えられるか、いかに使いこなせるかを具体的な例を挙げながら、わかりやすく説明しています。この本が対象としているのは、あくまでも図書館員でなく、一般利用者の方ですが、図書館員にとってもレファレンス・テクニク上達の指南書として利用できる内容となっています。

カウンターにいと、利用者から、本当に思いがけないことを質問されるものです。第1章“図書館で謎を解く”では「アメリカはホントに五十州か？」など、実際にあった具体的な質問について、どのように回答したかを紹介しています。手ごわそうな質問の数々、自分ならどう調査するか？という図書館員としての、回答法への興味もさることながら、読み物としても非常に面白い内容となっています。「ツタンカーメンのエジプトマメ」って何だろうと気になりませんか？

図書館をあまり利用したことがない人にとっては、図書館ってこんな質問にも応えてくれるんだ！と、びっくりすることと思いますが、さらに第2章では“まちの図書館はどんなところ？”として、図書館の機能を紹介しています。特に興味深いのは、書店との比較です。新刊があまり買えなくて…という図書館も多いと思いますが、書店には逆に古い本はない！のです(しかし新刊はやっぱり必要です)。両者の長短所を知ってもらい、使いわけを薦めているところは、さすが一般向け！図書館だけをひいきしていません。

そして、図書館員としては、読んで欲しいような欲しくないような第3章“図書館でしらべてみよう”。レファレンス回答中の、図書館員の頭の中を覗かれています。さらに「図書館員のテクニク公開」として、手の内までさらされてしまいます。また、図書館を使って、どのように調査していけばいいのか、実例を使って解説しているのですが、基本的なレファレンス・ツールが紹介されており、図書館員にとっても、非常に役立つ内容となっています。基本に沿った調査プロセスは、OPACやインターネットに頼りがちな今、もう一度確認する必要があります。実際、誰もがここまで自分の調べものができるようになったら、商売あがったりかもしれません。

さらに、第4章“図書館はつながっている”では、“まちの図書館”は1館だけで存在しているのではなく、図書館ネットワークの中で存在していることや、専門図書館、大学図書館も活用できることが説明されています。専門図書館にはどのようなところがあるか紹介されており、これは役立ちます。また、先進的な海外および国内の“まちの図書館”を、第5章“図書館は進化する”で、紹介しており、“まちの図書館”をただ利用するだけでなく、これからどう育てていくべきかという示唆的な内容となっています。

レファレンスがあまりこないという図書館は、ぜひ、利用者の目に付くところに

配架して、手にとってもらってください。まだまだ、レファレンスということを知らない人は多いのです。本書をきっかけに図書館も「けっこう役に立つもんだね」と思ってもらえればいいのではないのでしょうか。レファレンスの参考にもなるし、読み物としてもおもしろいし、利用者のためにもなる。これはお得です！

<連載>

課員のつづやき 日々の業務からの短信

恐るべし！年の功 - 「莫大小」と「あいとえきしょうせざるはこうのはじめなり」の教訓

7月に当館で中堅職員研修会が行われた際、参加者から「『これは使える！』おすすめレファレンスブック」と番外編で「意外なときに役立った！」もの（必ずしも資料にあらず）の事前アンケート調査を行った。

アンケートをまとめるために、つらつらながめていると番外編の中に“人々の記憶（ときには惑わされることも）”という一文が目をついた。これは何を隠そう、当課から参加する職員の回答で、思わず“惑わす”のは私？とばかり、職員に「喧嘩売っているわけ？」とやさしく聞いてみた。が、冷静になって振り返ると、私もまた、時には惑わされながらも、先輩の知恵に頼りながら今に至っている…ということ。

<その1：頼りになります “年の功” 編>

もうかれこれ10年程前。某町立図書館長から「“莫大小”とは何と読むのか？」という質問がきた。電話を受けた先輩職員は、早速国語辞典はもとより漢和辞典や類義語辞典等々を調べたが、一向にわからず Give up。隣でぶつぶつ言う先輩に対して、何らの発言もできず、はたまた当て字ではと思い当たるセンスもなく、ただ傍観するのみの私…。が、後日、件の記録票を見た当時の課長が、「メリヤスじゃない？ 当て字じゃないの？」とつづやく。組織で仕事という日頃の原則も棚に上げ、先輩職員は「何で早くそのことを…」と今にも悶絶死寸前。私は私で、早速参考図書コーナーの「当て字の辞典」（東京堂出版 1991）で調べると、確かにありました、「莫大小 メリヤス」と。

教訓その1、組織で仕事をすること。

教訓その2、二進も三進もいかないときは、資料や知識豊富な人生の先輩に素直に教えを乞うこと。

<その2：ときには惑わされます “年の功” 編>

先日、講演会で聞いたという「あいとえきしょうせざるはこうのはじめなり」とは誰の言葉かという Fax がきた。これを見た先輩は、これは教育勅語であるまいかとのたまう。そして、私は私で、軍人勅諭か戦陣訓かなどと、二人で「相益不生始孝」と書くのだろうかとないう知恵を絞りあう。ともあれ、現物へと走るが、教育勅語でも軍人勅諭でも、さりとして戦陣訓でも見当たらない。こうなったら聖徳太子の

十七条憲法かとも思ったりしながら心は千々に乱れる。何を見ればいいんだろう？

結局、冷静になって、もう一度文面を読む。「あいとえき」は怪しいかもしれない。が、「こうのはじめなり」は間違いかもしれない、と勝手に推測し、「始孝」は親孝行のことだと、「大漢和辞典」を調べ、そして「中国古典名言事典」(講談社1972)の件名で“孝”をひたすら探す。そうすると出てきました、「身体髪膚(しんたいはっぷ)之れを父母に受く。敢えて毀傷せざるは孝の始めなり」(「孝経」)と。

教訓その1、資料や知識豊富な人生の先輩と言えども思い込みは禁物。

教訓その2、講演の題やこの言葉が使用された前後関係を聞いていてくれたらなあ～と、レファレンスインタビューの大切さを改めて実感。

その後の話。全貌が明らかになって、件の先輩は「身体髪膚」に何やら聞いたことのある言葉だと敏感に反応した。粘着質を發揮し、向田邦子の著作から「身体髪膚」というエッセイを探し出した。さらには、しつこくその研究書の1冊から「『身体髪膚・・・』など教育勅語の一節やいかめしい格言も向田は好んで書いた。学校や父親が子ども達に復唱させていた教育勅語や格言が、家庭生活の中に生きていた時代があったのだ。」(「向田邦子鑑賞事典」 翰林書房 2000年 p37)という記述を見つけ出す。戦前には教育勅語とともに暮らしの中で当たり前のように使われていた言葉のようだが、いかんせんこっちは戦後生まれ。チンプンカンプンの言葉なのだった。

ひょっとして10年前の課長が、今いたなら、またしてもぼそっと「身体髪膚～のことじゃない。“あいとえき”じゃなくて、“あえて、きしょう～”よ、これ。」とつぶやいていたかもしれないなどと、その風情も含め懐かしく思い出す。そうであったなら、さらに恐るべし年の功となっていただろうか。

それにしても、件の職員のアンケート回答、おっしゃるとおりでございます。

NEWS その2

ただ今、進行中！

「市町村図書館購入雑誌・新聞総合目録」(仮称)の経過報告

8月中に各市立図書館から所蔵のデータをいただきました。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

現在はいただいたデータを編集しているところです。今秋中の完成を目指し、作業中です。もうしばらくお待ちください。

全道部門別研究集会のテーマはレファレンス

北函振主催の全道図書館部門別研究集会在11月21日(木)・22日(金)、札幌市において開催される予定です。レファレンスは3年ぶり。

多くの方の参加を！

聞かせて！「Do-Re」って？

— 昨年に創刊した「Do-Re」も、数えること早や 12 号。最近、市町村の図書館（室）の方から、「Do-Re」の編集方針を聞かれることが多くなりました。そこで、この「Do-Re 北海道立図書館レファレンス通信」の生みの親にその編集方針を聞いてみました。

Q1 創刊の動機は？

A1 1992 年創刊の都立多摩図書館のレファレンス広報誌「しらべま専科」を知ったことです。当館でもいつか実現させたいと、ず～っと思いつづけていました。今は、「Do-Re」がなかったとしたら、“お知らせしたい情報はどうなっていたのかなぁ～”と、しみじみ考えてしまいます。

Q2 各連載のコンセプトは？

その 1 「こんなのきました」

A-2-1 特異な例や際立って複雑・困難なだったものは対象にしていません。類型的な事例とか、質問が繰り返されると予想されるようなものを掲載するよう心がけています。が、どうでしょう？これからは、「Give up！事例」も面白いかな・・・？

その 2 「こんなのあります」

A-2-2 「入手可能で / おすすめしたいもの」がコンセプトです。専門書や高額なものはなるべく避けて、文字通り“こんな便利がものがあるよ”というシリーズです。

その 3 「Librarian's Box」

A-2-3 通巻 7 号からの企画です。News 欄のくくりから飛び出るお役立ち情報や各館の動きなどをお知らせするコーナーです。

編集後記

8 月から A 改め M となりました。見なれない名前を見たり聞いたりしたら、それはわたしです。中身は特に変わっていませんので、今までどおり、よろしくお願いします。(M) ひょうたんからこま、あつという間もなくできてしまった初めての「別冊 Do-Re」。あなたのおそばで「本の謎」を解いているのでしょうか？これからも、あったら便利、ちょっとしたレファレンス小冊子を年に 1 回か 2 回、作ってイケたらいいなぁ～。(K1) レファレンス環境の著しい変化（進化？）をなおさらに感じる事がふえました。これって、「私も進化しつつある？はたまた退化していることになる？」どっち？(み) 秋田市に行く機会があり、県立博物館の中にある菅江真澄資料センターを見てきました。この菅江真澄が江戸後期に北海道を旅し、有珠山にも登ったこともある旅行家であることを初めて知り、改めて地元に関する知識が弱いこと痛感してきました。(H) 市町村の図書館に比べ参考図書が多い当館ではありますが、最近はネット上で捕まえる情報も多くなりました。日々勉強。この夏、ノート PC を購入して仕事の効率 up！いつの間にか備品になりそうな予感...？(Y) その通り... 陰の声 移動図書館事業に参加することを口実にデジタルカメラを買いました。巡回中あちらこちらで撮影し、プライベートではそれ以上に撮影中。人形だらけの愛車に乗り、今日もどこかでシャッターを切っています。(On) これまた備品に・・・。



Do - Re(どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の略から名付けました。
しかしながら “ Do ! Reference ” と
あるいは “ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 8(通巻12号)

発行年月日 平成 14 年 9 月 30 日

編 集 北海道立図書館参考調査課

発 行 北海道立図書館

〒069 - 0834 北海道江別市文京台東町41番地

Tel 011-386-8521 Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>
